

国立国語研究所学術情報リポジトリ

米国議会図書館アジア部日本課蔵『源氏物語』の調査概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002596

米國議會図書館アジア部日本課蔵『源氏物語』の調査概要

伊藤 鉄也(国文学研究資料館)

■ 原本調査

- 調査日 (一回目) 二〇一〇年一月二五日(月) ～二七日(水)
(二回目) 二〇一一年一月二四日(月) ～二五日(火)
- 調査メンバー 豊島秀範(國學院大學)
伊藤鉄也(国文学研究資料館)
斎藤達哉(国立国語研究所↓専修大学)
高田智和(国立国語研究所)
菅原郁子(国文学研究資料館)
神田久義(國學院大學)

■ 書誌概要

- 全五十四冊
- 装丁 列帖装(虫少々、塗り箱入り)
- 題簽 柿渋色
- 寸法 約二十五センチ×十七センチ
- 用紙 鳥の子

- 表紙 濃青色(後補による改装か)
- 題簽 極め 五辻諸仲(一四八七—一五四〇)筆
- 外題 三条西実隆 古筆了仲極め札(正徳元年五月下旬)
- 本文 今後さまざまな分野から検討が加えられるはずである。今は、伊藤の分別試案(乙類)とする。従来の(別本群)に近いものである。

■ 調査報告

(1) 和歌の四字下げ二行書きの存在

第二句と第三句、第四句と第五句などが、割り注のように二行書きとなっていて、一見散らし書き風の例がある。(非常にめずらしい例。従来知られていない装飾的な書き方。書写行数の調整か)

【第二十四卷「胡蝶」の例】

こてふにも さそはれ ころろ やへやま へたて
なまし ありて ふきを さりせは

割り注のように散らして和歌が書かれているのは、次の十三卷。

12 須磨・13 明石・14 澁標・20 朝顔・22 玉鬘・24 胡蝶・25 螢・
28 野分・29 行幸・44 竹河・45 橋姫・51 浮舟・52 蜻蛉

議会図書館本『源氏物語』の全五十四卷にわたって、このような書式で和歌が書かれているのではない。同じ巻に、この散らし書きと、一行から二行にわたる普通の書き方が混在している。

なお、この一見散らし書き風に和歌を書写することについては、今後の検討にまきたい。現段階では、以下のことが想定できる。

- ・この散らし書きは、行の節約ではなく、和歌という性質によるもの。
- ・非常に単純な散らし書きであり、装飾的なものか。
- ・料紙の節約ではなく、あくまでも装飾的なもので、美意識によるもの。
- ・伊勢物語にも存在するようである。
- ・御伽草紙などでも、本文の途中でこのようにすることがある。
- ・巻末の書写では、散文でも数行にわたって書写することがある。
- ・鎌倉の写本では例がない。室町末とか江戸初期のものである。
- ・奈良絵本では室町末のものも江戸期のものでもこの書き方がある。
- ・源氏物語写本の中では見あたらぬ。

(2) 書写行数が一定しない

議会図書館本『源氏物語』は、だいたい十行で書写されている。しかし、「帚木」巻には、八行で書かれた丁、九行で書かれた丁、十行で書かれた丁と、一頁に書かれる行数にバラツキがある。また、「桐壺」巻で八行と九行、「常夏」巻は十行と十一行、「横笛」巻は十行と十一行と

十二行、というように、さまざまなパターンがある。特に後半部の巻々には、この傾向が顕著である。普通は、せいぜい一〜二行程度の差である。この本の例は、非常にめずらしい。(書写枚数の調整か)

(3) 遊紙がない巻が多い

議会図書館本『源氏物語』は、列帖装の本の最後の括りの最後の紙に書写して終わっている巻がほとんどである。つまり、最終丁のオモテカウラに文字が書かれている。また、巻頭などに遊紙がないのも特徴である。改装によって紙を失っている訳でもない。少なくとも、人への献呈本ではなさそうである。(書写枚数の調整か)

(4) 表紙左端に線の跡

表紙左端四ミリの位置に、縦にヘラで押しつけて引いた線の跡が、全巻にわたってある。

古い冊子本には、まれに、卷子本の押さえ竹(一番端に取り付けてある竹で、捲れるのを防ぐためのもの。八双とも)と同じものを持つものがある。尾州家河内本にも、その跡かと思われる痕跡がある。ただし、それはかなり時代が遡るもの。非常にめずらしい例となり、今後のさらなる調査検討が待たれる。

(5) 見返し右端に糊跡

全巻にわたって、見返しの右端に糊の跡と、剥がされた和紙の一部が残っている。改装された跡だと思われる。補修前の原表紙を推測する手

掛かりとなる。

(6) 傍記混入の例

第二十三卷「初音」巻の第一丁ウラ九行目に、「御かた／＼にの」と書かれている。ここは、物語本文に「タつ方、御方々の参座したまはんとて、」とあるところなので、助詞の「に」か「の」のいずれかが傍記されていたものと推測される。それが、本行に傍記混入したものと考えられる例である。

現在、麦生本と阿里莫本に「御かた／＼へ」とある以外、私が確認している他の古写本十七種類には、「御かた／＼の」とある。この議会図書館本のように「御かた／＼にの」という文は、初めての例となる。

おそらく、「御かた／＼の」の「の」の右に異文注記として「に」が書かれており、その「に」が「の」の前に混入したと思われる。これは、議会図書館が伊藤の分別試案〈乙類〉とした場合、〈乙類〉の傍記は本行の前に混入する、という傾向の実際例ということにもなる。そして、「御かた／＼に」という異文が存在したことが、ここから確認できるものとなる。

(7) 本書の書写者には文節意識がある

今回私が詳細に調査した「初音」巻を例にする。

この巻の改頁箇所は、以下のようになっている。

文節で改頁 十二例

単語で改頁 六例

語中で改頁 一例

頁を跨る書写において、切れのいい語句のところできき終えて頁を改めていることがわかる。これは、書写者に、無意識ながらも語句の切れ目に関する認識があったと言えよう。

なお、この問題については、拙文「古写本における書写者の心理を読む」(豊島秀範氏の科学研究成果報告書『源氏物語本文の再検討と新提言 第3号』二〇一〇年三月)を参照願いたい。

(8) 丁裏に文字の転写

「初音」巻のウラ見返し一面に、半丁九行分の文章が写っている。

これは、丹念にその紙面が削られているので、判読に時間を要する。

また、その紙の裏面にも、半丁九行分の文章が微かに判読できる。

これらが、どこの巻のどの部分なのか、または別作品なのか、今のところは不明である。後日の調査としたい。

〔付記〕

本稿は、平成二十二年三月二日(火)に国立国語研究所 2階 多目的室において開催された、【共同研究プロジェクト(C)】「仮名写本による文字・表記の史的研究」第2回研究会 テーマ:資料調査における日本文学分野との連携」において、伊藤が「海を渡った『源氏物語』たち」と題して研究発表をした際の資料をもとに、二回目の原本調査(二〇一一年一月二四日～二五日)の結果を加えて整理したものである。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing hand across several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing hand across several lines.

議会図書館本『源氏物語』の調査報告 (2010/01/27 版)

巻順	巻名	丁数	遊紙	括り	本文行数	和歌分書	書入	担当者
1	桐壺	25	前1	3	8,9		○	高田智和
2	帚木	42	前1	4	8,9,10		○	高田智和
3	空蝉	10	前1	2	9		○	豊島秀範
4	夕顔	39	前1	3	9		○	豊島秀範
5	若紫	28	0	4	10		○	豊島秀範
6	未摘花	26	後1	3	9		×	豊島秀範
7	紅葉賀	20	後1	2	10		○	斎藤達哉
8	花宴	8	0	2	10		○	斎藤達哉
9	葵	32	0	3	10		×	斎藤達哉
10	賢木	36	0	3	10		○	斎藤達哉
11	花散里	6	前1,後1	2	10		×	斎藤達哉
12	須磨	30	0	3	10	○	○	菅原郁子
13	明石	28	0	3	10	○	○	菅原郁子
14	湊標	24	0	3	10	○	○	菅原郁子
15	蓬生	16	0	2	10		○	菅原郁子
16	閑屋	6	0	2	9		×	菅原郁子
17	絵合	14	0	2	10		×	菅原郁子
18	松風	16	0	2	10		×	神田久義
19	薄雲	22	0	3	10		○	神田久義
20	朝顔	14	0	2	10	○	×	神田久義
21	少女	38	0	4	10		○	神田久義
22	玉鬘	30	0	2	10	○	○	神田久義
23	初音	10	0	2	10		○	伊藤鉄也
24	胡蝶	16	0	2	10	○	×	伊藤鉄也
25	蛩	14	0	2	10	○	×	伊藤鉄也
26	常夏	16	0	2	10,11		×	伊藤鉄也
27	篝火	5	後1	2	8,9		×	伊藤鉄也
28	野分	14	0	2	10	○	×	伊藤鉄也
29	行幸	20	0	3	10	○	×	伊藤鉄也
30	藤袴	12	0	2	10		×	伊藤鉄也
31	真木柱	28	0	3	10		×	高田智和
32	梅枝	14	0	2	10		×	高田智和
33	藤裏葉	20	0	2	10		×	高田智和
34	若菜上	78	後1	4	9		○	菅原郁子
35	若菜下	72	0	4	9		○	菅原郁子
36	柏木	30	0	3	10		○	菅原郁子
37	横笛	12	0	2	10,11,12		×	伊藤鉄也
38	鈴虫	14	0	2	9,10		×	伊藤鉄也
39	夕霧	46	0	3	10		○	伊藤鉄也
40	御法	14	0	2	9,10		○	伊藤鉄也
41	幻	16	0	2	8,10		×	高田智和
42	匂宮	10	0	2	10		×	高田智和
43	紅梅	10	0	2	10		○	高田智和
44	竹河	32	0	4	9,10,11	○	×	斎藤達哉
45	橋姫	28	0	3	10		×	斎藤達哉
46	椎本	28	0	4	10	○	×	斎藤達哉
47	総角	64	後1	3	9		○	斎藤達哉
48	早蕨	14	0	2	9,10		×	豊島秀範
49	宿木	60	0	4	9,10		×	豊島秀範
50	東屋	42	0	4	10,11		×	豊島秀範
51	浮舟	44	0	4	10	○	○	豊島秀範
52	蜻蛉	36	0	3	10,11	○	○	神田久義
53	手習	42	0	4	9,10		×	神田久義
54	夢浮橋	12	0	2	9,10		×	神田久義